

紙ンデレラトーク

紙のまちに恋して



2026

紙ンデレラ

それは、「日本一の紙のまち」四国中央市の紙関連企業で活躍する女性たちのことです。今回は、3人の紙ンデレラに加え、これから紙ンデレラとしての一歩

を踏み出す大学生が、それぞれの視点から「紙のまち」で働くことの魅力や課題、そして未来への展望について語り合いました。



社から内定を頂いており、4月からみなさんの後輩になる予定です。



片岡・山内・山本 ようこそ！

なぜ紙ンデレラに？

山内 小学校の社会科見学や、イベ



多彩な商品デザインが自社のデザイナーによるものだと知り、驚いたと話す山本さん

ちが楽しめるイベントなどを開催しています。そういった社会貢献活動に力を入れている会社はきっとアットホームだらうと（笑）。しかし、新型コロナウイルスの影響で仕事を続けることが難しくなり、リターンしました。コロナ禍での転職には不安もありましたが、地元に戻れば多くの企業があるという安心感もありました。散歩コースにあつた当社が、ちょうど私の希望する職種を募集していたのに、さすがに驚きました（笑）。

山本 私も転職組です。前職はクルーズ客船のクルーでした。しかし、新型コロナウイルスの影響で仕事を続けることが難しくなり、リターンしました。コロナ禍での転職には不安もありましたが、地元に戻れば多くの企業があるとい

う安心感もありました。実は就職活動を始めるまで当社のことは知らなかつたのですが、不織布という素材の可能性に魅力を感じて入社を決めました。

片岡 私も工場見学や愛媛大学の出前授業などで紙の魅力を知り、将来は紙に関わる仕事に就きたいと思いました。その思いを実現するため、地域の企業や行政と協働し、地域経済の発展や社会課題の解決に向けた学びができる本学科に進学しました。

井原 私も工場見学や愛媛大学の出前授業などで紙の魅力を知り、将来は紙に関わる仕事に就きたい

と思いました。その思いを実現す

るために、地域の企業や行政と協

働し、地域経済の発展や社会課題

の解決に向けた学びができる本学

科に進学しました。

片岡 私は転職を通じて紙産業に携わるようになりました。文字通り「アットホームな会社」を探していました。当社では、製造過程で発生した損紙を活用して、子どもた

が、私は転職を通じて紙産業に

携わるようになりました。文字通

じで、これまでに2度育児休暇を

取得し、現在も時短勤務をさせて

もらっています。

片岡 製造現場は男性が多いです

が、私の部署は全員が女性です。

子育て世代への理解がある職場な

ど、これまでに2度育児休暇を

取得し